こうのす民報
議会報告版

日本共産党鴻巣市委員会の見解を紹介します。

日本共産党鴻巣市議団

竹田えつ子　☎542-7072　FAX542-7101

すわみつえ　☎507-4151　FAX596-9440

3月定例会　会期日程

本庁舎改修のため議会は川里農業研修センターで行います。

2月23日（火）　請願締切（正午）
2月26日（金）　本会議
3月3・4日（木・金）　本会議
3月7･8日（月･火）文教福祉常任委員会（竹田議員）
3月9･10日（水･木）政策総務常任委員会（すわ議員）
14（月）16（水）18（金）22（火）一般質問
3月24日（木）本会議　討論・採決

是非、傍聴をお願いします。

2016年決意新たに
平和とくらし守る年に

戦争法安保法制廃止を求める2000万署名にとりくんでいます

戦争法の強行から4ヶ月。大学生・高校生、若者、学者、ママ、弁護士、労働者らが全国各地で集会やデモ、講演会、シンポジウムを行うなど、戦争法廃止を求める声と運動は止まるどころか新たなうねりをみせています。

いま、戦争法に反対するたたかいをすすめた諸団体が共同して、戦争法廃止の「2000万署名」に取り組んでいます。戦争法廃止の国民世論をさらに広げ、安倍政権を追い詰めるために、ぜひ署名を広げる活動にご協力ください。

2016年、平和とくらしをまもるために、さらに頑張る決意です。

いのちと健康を守る総合病院の誘致を

市が2年間、協議を進めてきた上尾中央医科グループが、県の病院整備計画に応募しないことで、総合病院誘致は白紙になりました。

すわみつえ議員は、市がこの間、総合病院誘致のため、基本計画地の農地転用への取組み、誘致先を急遽、赤見台近隣公園に変更したことなどの経過をただしました。

また、住民の皆さんから寄せられた赤見台近隣公園を「医療・福祉・商業集積地ゾーン」から元の「公園・緑地ゾーン」に戻すことを求め質問しました。

市から「平成28年度の総合振興計画審議会にはかる」という答弁を引き出しました。

安倍政権が進める入院病床数の削減・診療報酬の引き下げ等の医療改悪、さらに消費税の引き上げが病院経営を圧迫しています。今回の上尾中央医科グループが鴻巣市への建設を断念したのも以上の要因です。

日本共産党は医療大改悪・消費税増税に反対していくとともに、市民のいのちと健康を守るため、地方自治体から「総合病院建設・地域医療の充実」を求めて引き続き全力をつくす決意です。

市民の憩いの場「赤見台近隣公園」

マイナンバーなくても不利益なし

マイナンバー制度について、竹田えつ子議員が質問しました。

通知カードが届いていない世帯は、12月10日現在、2095件であること。マイナンバーがない場合でも、行政手続き上不利益が生じる事はないと市は答えました。不利益がないなら、様々な問題があるマイナンバー制度は、国に対し、中止・撤回を求めるようただしましたが、市は、その考えはないと答えました。

マイナンバー制度は、今後銀行・コンビニ・年金とも連結することが検討されています。個人情報が漏れたら取り返しがつきません。「中止、撤回を」の声をあげ続けましょう。

お気軽にどうぞ　法律・生活相談

毎月第4金曜日13:30～15:00日本共産党鴻巣市委員会事務所
法律相談の場合あらかじめ予約をお願いします。問い合わせは竹田えつ子、すわみつえ

竹田えつ子議員

鴻巣市議会12月定例会が、11月30日から12月18日の会期で開会されました。竹田えつ子議員とすわみつえ議員は、市民の切実な願いを届けるために力をつくしました。

すわみつえ議員

学校をなくさないで

学校統廃合・小中一貫教育について

文科省の「公立小学校中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」のもと、市は検討を始めました。内容は児童・生徒数の減少から、学校の統廃合を行なうというものです。川里地域では小学校3校を統廃合し、小中一貫教育をすすめる計画です。

「学校は地域の要」であり、なくしてはならないとの観点で質問をしました。

市から「行政が一方的に進める性格のものではない」との答弁がありました。

今後、各地域で開かれる意見交換会にも参加し、住民の意見が反映されるよう取り組んでいきます。

教育委員会案

●小学校の統廃合は
屈巣、共和、広田小学校を1校に。
笠原、常光小学校は中央小学校へ。
小谷、大芦小学校は吹上小学校へ。

介護サービスについて

要支援1・2の方々が利用しているデイサービスと訪問介護が、2017年4月に総合事業に移行されることで、利用者の利用負担及び事業者の介護提供料金を質問しました。市からは、「改定前と同等の料金で利用できるよう進めていく」という答弁を得ました。

また、特別養護老人ホームは2017年4月に新たに100床増設を予定しているとのことですが、135名が入所を待っています。誰もが安心できる基盤整備が行なわれるよう今後も取り組んでいきます。

子育てを応援する市政に

市の子どもの貧困対策は

子どもの貧困率は16・3％で、先進国の中で最悪レベルです。貧困の連鎖を断ち切るための市としての貧困対策について質問しました。

市は、子育て世代の経済状況を直接把握するのは難しいが、児童扶養手当、一人親家庭の医療費などの総合支援として、こども未来課が中心となって相談体制を強化していくと答えました。

保育料の一時的利用料の保護者負担はなしにすること

保育所のお迎えで電車の遅延や道路状況で遅れた場合でも、例外なしに利用者負担をさせています。子育て世代は時間的にも経済的にも大変な思いをしながら頑張っています。せめてこうしたケースの場合は、公立・私立とも市が補助することを求めました。

市は、様々な福祉のサービスをしているので、そのようなことは考えていないと答えました。

就学援助制度の拡充を

就学援助制度に部活動費・PTA会費・メガネ代などを含めれば、市の試算ではあらたに約1000万円です。子どもたちの夢を応援するためにも拡充することを求めました。

教育長は、すでに就学援助制度では5500万円の予算を使っており、総合的な視点から現在の状況であると答えました。

子どもたちは社会の宝です。子どもの貧困対策は急務です。これからも取り上げていきます。

難病患者手当の復活を

市は難病患者の範囲が広がる事を理由に手当を5000円から1000円に削りました。元に戻すことを求めました。

市の答弁は、新たに申請した人は6人であり、予算2000万円に対し執行額で381万円であると認めました。総合的な判断で改正を行ったので元に戻す考えはないと答えました。

今後も取りあげていきます。

〔お詫び〕

12月18日の議会最終日に、私竹田えつ子は、他会派の議員に対し「病院ができなかったら○○議員のせいだから…」と失礼な事を言ってしまいました。直接、議員に謝罪しましたが、議会人としてあるまじき行為であり、私も深く反省をしています。今後この様なことのないよう、いっそう精進してまいります。

竹田えつ子

本当がわかる明日が見える
しんぶん赤旗
●毎日配達の日刊紙／月3,497円
●毎週配達の日曜版／月　823円
憲法、社会保障、原発、雇用、TPP…「本当のことが知りたい」その思いにこたえる新聞です。暮らしに役立つ情報も満載です。
見本紙お届けします